

# 農園便り 3月号

2024/03/01

(135号)

文責 筒口典康



2/20 練馬区の関町3丁目農園33区除草剤散布被害を受けて、約30cmの深さで土を取り除く。

影は、撮影する私。

小型シャベルカー

2月20日、3丁目農園に行ってみますと、1月まで使用していた耕地、33区の土が取り除けられて撤去されていました。

二年間、色々な有機物を入れて、善玉菌も(麹菌・納豆菌・乳酸菌・酵母菌・放線菌...)も投入してきた。で...、沢山の生命体がいた「土」が消失してしまっていたので、驚いた。

都市農業課に問い合わせますと、除草剤を散布された耕土は基本的に取り除いて、「客土」する。既に、区画2か所は実施している。と説明された。

加害者の〇〇なる者は犯行を楽しんだ。ひどい目にあいました。いまだ逮捕されたと言う話しは聞いていない。耕土の撤去も、区民の健康被害を防ぐと言うことならば、致し方ないか...。

坂本さんの耕地は、私の所よりも、もっと多くの除草剤を撒かれた。

「水」での畑の洗浄はしてない。しばらくは「袋栽培」に切り替えていた。多分、坂本さんの区画にも近々シャベルカーが入ると思うが...、どうなることやら...。薬の原液が撒かれて、葉がテカル。積もるほどの粉剤が撒かれた。

私の33区は、いまだにユリ科の野菜の機嫌が悪い。育てにくい。ともかく除草剤は恐ろしい農薬だ。「土壌検定」を希望する。だがその「土」は、

既がない。

幸い、1月中に新しい耕作地 57 区に 33 区の表土を削って生命体(善玉菌・ミミズ・線虫・昆虫・菌など)を移動していましたから、彼らが生き残っているでありますよ。

地主さんと時にはお話することもあるのですが……。昔、この農園辺りは、雑木林であったとか。畑地になり、やがて区民農園になった。終戦前の事でしょう。戦後、住宅化も進み、また相続問題等でその区民農園も狭くなる。『皆さんが楽しく、仲良くお使い下されば、これほど嬉しいことはありませんヨ』と。

千川上水の岸の植え込みもしっかり管理されて、きれいになった。今や手入れ過剰な状態である。カマキリの姿が見かけない。オケラは絶滅。地潜り(蛇)も。アオガエルも。始まりは、ホタルからである。去年いた大きなアオダイショウ(蛇)は、まだ生きていますでしょうか?。中1の時に、アオガエルを食べているカマキリを見た。近所の書道の先生に呼ばれて、恐ろしいカマキリを見た。今は昔の事である。

杉並区では、あえて自然林、草原(くさはら)域を設けて保護している。 都立神代公園にも放置林が作られている。

終戦直前、集団疎開から栄養失調の死にかけた体で飯田町に帰る。進駐軍統治下、シラミ対策で、頭から体中に浴びせかけられた DDT。当時復学した千代田区の富士見小学校で、お化粧をしたかのように、全身白く掛けられた。

DDT、スミチオン、パラチオン……、銅剤、水銀剤、ヒ素剤、……農薬のオンパレード。菌も虫たちも対抗してくる。益々、農薬の開発が加速した。

農薬自体が「毒剤」なのであります。土壤にクロールピクリンを灌注する。どんどん新薬が開発されていく。これで「土」の生命体が壊滅。全滅。いわゆる「沈黙の世界」となる。農業従事者の方々が薬害で倒れる。

とにかく農薬の使用は、直ちに止めましょう。 野菜を購入して食べる私たちは、危ない。

無農薬で作物が作れるのでしょうか。作れます。 自然の大循環の理に沿うことで作れるのです。 それしか無い。

「育土」する(生命一杯の土にする)。「不耕起」。有効(善玉)菌による「醗酵肥料」。有機物の多用で。コンパニオン作物との、共(とも)作り。納豆菌、放線菌・・・は、悪玉菌をヤツツケル善玉。ミミズの糞の中には、放線菌が居る。

適期適作。耕土を乾かさない。排水を適度に保つ。適正PH。(草を見て知る) 大自然の流れに沿う。草も、菌も、虫たちも・・・在って良いのであります。居て良いのであります。そのようにすれば「健康野菜」「元気野菜」を作ることができる。となると、・・・農薬は全くいらないのであります。

化学肥料・農薬は、耕土を痛めつける。

ドイツやアメリカでは、自然農法への回帰が始まっている。 日本の農薬会社の製品が売れなくなり、引き上げが始まっていると言う。派遣されたバイヤー(若者)が追い込まれて、難儀(自死)している話も聞く。農薬が売れない。

中国の富裕層の人たちは、自国の野菜は食べないで、安心安全な日本の食品を買っているとも言う。家庭菜園では、有機・無農薬での野菜を作りたいものである。

上海に旅行した時に、道路沿いの用水路が緑色(硫酸銅)に染まる。農薬で発色しているのには驚きでした。食事をするのが恐ろしくなった。中国行きの格安旅行は、するものではない。

コンバインによる深耕は、「土」を固め土中の生命体を痛めることが解ってきた。 深く耕さなくとも有機物を地表に置き続ければ、各種の生命体で「土の団粒化」が進むのであります。林地、草地のようにフカフカになっていくのであります。オクオク・ラクラクなのであります。「不耕起」が良いと言うことだ。有機物を地表に積んでいくだけで良い。林のように。原のように。

生産効率を上げるために化成肥料を施す。硫安、過燐酸石灰、硫化加里、塩化加里、石灰・・・。いわゆる単肥の時代を経て、化成肥料。配合肥料。で、野菜たちに無理やり太らせる。肥満になった野菜たちに、病・虫害が多発する。薬剤散布となる。これが、「慣行農法」「現代農法」の実態なのであります。健康に良い分けありません。見かけだけのお野菜は、危ない、危ない!。美味しい野菜であるわけない。



2/24

最新カタログより

タキイ種苗、

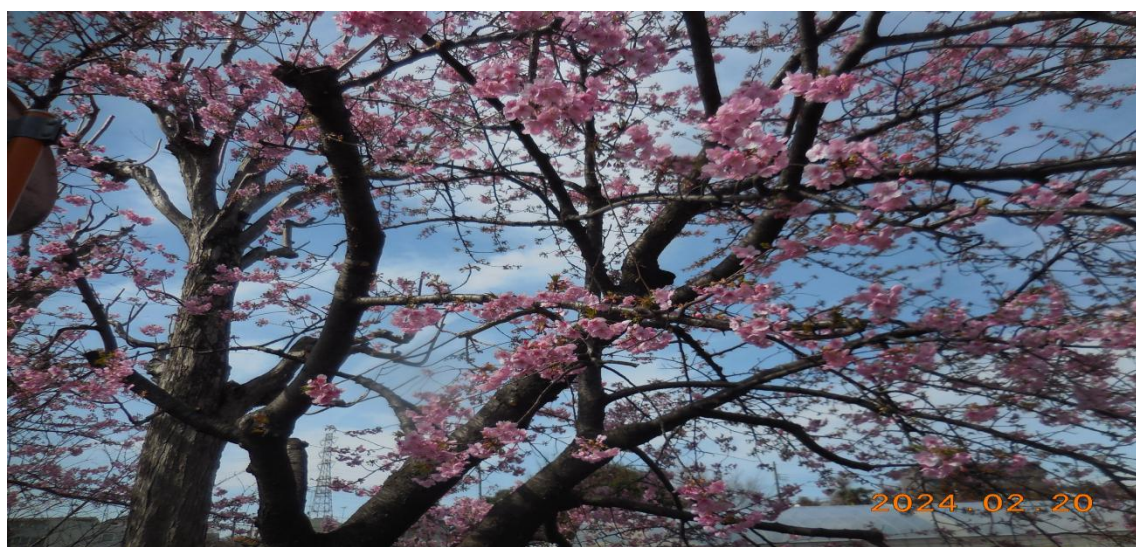
今年は葱、玉葱、ニンニクを植えましょう。柑橘類の果皮も干してありますからネギ畑に使う。以前使って良かった「グリーンランド」(醗酵豚糞肥料) (株)エンザ ☎0279-67-3577 茨城 担当吉田三男 60kg ¥9900 10kg入りから扱う。税込み値。小金井市の学校、公園などで使われている。

グリーンランドは、やや葉菜向き。カニ殻は、杉並グリーンセンター(青梅街道荻窪陸橋東へ 新宿方向北)で買う。

キュウリ、ナス、トマト、ピーマン等は、種子蒔から始めるのが良いのですが、我が家の条件下では、どうしてもモヤシ化してしまうので、オザキフラワーのお世話になります。苗を買うことは、育苗時間を買うことでもあります。

オザキでは、コーナーごとの責任者が配置されていて、快く説明していただける。オザキは高いというが、説明が行き届いているので納得できる。

中には、背伸びして説明する店員さんもいるが、勘弁、勘弁。



2/20

大千川上水沿いの土手に咲く彼岸桜

尾崎さん宅のガラスハウス

今年は、先ずは白梅。次いで、紅梅。 彼岸桜。 木瓜がチラホラ。 ミニ温室の中では君子蘭の花芽が伸び始めた。 シクラメンは注文しておいたのですが、今だに入荷の知らせがないのであきれている。 少々癪に障る。 どうなっているの？。 まー…いいさ。 行かなければ良いのだから … ！。

杉並西山さんの野菜のスタンドに、ネギとナバナ。大根も。 これがまた新鮮で美味しい。 畑周囲に青梅街道の街路樹のケヤキの落ち葉が山のように積んである。 善福寺池公園の落ち葉も運んで置いてある。 西山君の野菜たちの旨さの訳が分かる。 腐葉土を多量入れている。 有機・減農薬で作られている。 ご自宅で売る場合少々お安めである。 それで、スタンドで買わないで自宅に行く。 収穫して洗って、産地名をつけて置いている。 『お茶でも飲んでいかない…』

テレビで「ポツンと一軒家」「田舎暮らし」「島暮らし一軒家」「自給自足」、これが一番贅沢な暮らし方であろうかと思う。

長男の友人が宝島社の「田舎暮らし」の編集長であるが、毎月家屋の物件の紹介をしている。 田舎の暮らしを紹介している。

田舎に移住するなら 50 代前半が限度。 定着して数年で病に倒れる。 嫁さんが出ていく。 ついてこない。 子供の学校がない。 病院が無い。 路線バスが廃線になる。 コンビニが撤退する。

強健な肉体、柔軟な思考、行動力、交際力。 何らかの特技・技術。 継続力。 忍耐力。 さも無い私は、小さな畑をチョコチョコ楽しむことで、良しとしましよう。 エイ！

T、